

複数の課題に智恵と工夫を凝らしてチャレンジしよう！

校長 谷島 昭

夏休みが終わり、いよいよ2学期がスタートしました。生徒諸君も、先生方も大過なく、全員無事に顔を合わせることができる幸せを感じます。

さて、この2学期、君たち一人ひとりがさらに成長するための課題の提起を激励の思いをこめて贈ります。

9月18日（土）と19日（日）には、第58回目を迎える武高祭が行われます。創立70周年を記念するに相応しいものとして成功させてください。

祭りは、ビタミンなどと同じで、私たち人間の体になくてはならない人類必須の栄養素です。日々の生活にメリハリをつけるのも祭りだし、「村が祭りを創り、祭りが村を創る」といわれるほど、祭りは、人と人との絆を強め、心が通い合うコミュニティを創りあげる決定打です。それぞれのクラスや参加団体が、最高の叡智と力を結集して、最高に質の高い、洗練された企画を見事に創りあげ、諸君たち武蔵丘生の心意気を天下に示してください。

人が行う評価ってとても厳しいものがあります。たとえばここに美しくきれいに磨き抜かれた白い壁があったとしましょう。でも、そこに一点でも汚れがついていたら、その汚れが壁全体の評価となるのが世の常です。去年、アイデアも完成度も高いものすごく楽しい企画だったにもかかわらず、会場に生徒の個人バッグが乱雑に置かれていてとても残念でした。みんなが快適で、心から楽しめるかどうか、きれいだななどと感じる「感性情報」はとても大事です。それを決めるのは、一人ひとりのセンスやアンテナであり、細かなところまでの気配りができるかどうかです。ぜひそういう新しい能力も開発する機会にしてください。

さて、文化祭の準備が本格化するに伴い、「企画が思うように具体化できない」「人がなかなか結集できない」「意見が食い違って前に進めない」などたくさん問題が次々に立ちあがってくるのがしばしば、というか、よくあります。計画を立てるときは大まかな総論でも前に進みますが、計画が実行段階になって細かい部分に入れば入るほど、課題は難しくなります。それぞれの個性の違い、人格の違いもあらわれ、衝突することだってあります。

その課題を発見し、解決して前進するのが、祭りの醍醐味です。問題が広がって火がついているのに、見つけようとしなかったり、見てみぬ振りをしたり、「無為」、何もなさないのは最悪です。気がつかない、自分には関係ないなどと思っているうちに、本来もっている問題発見能力や解決能力はどんどん駄目になっていきます。

解決するコツは、全員が最終的な完成物、結果に責任をもつ立場にたつことです。しかも、うまくいっているはずなんかない、必ずどこか問題があるはずだという前提に立つこと、そしてお互いに少しお節介りになって同じように心配しあうことです。そうすると問題がどんどん見えてくるし、解決も図られる。もし、問題がなければ

よかったよかったと安心できることにもなります。こうやって問題の発見と解決に努めることが、何よりも、友達に失敗させないということにつながります。文化祭には教科書はありません。それだけに、このやり取りは頭も使うし、相手への心遣いも不可欠です。だから、祭りは人を育て、クラスを育てるのです。

もう一つ大事な課題があります。決して、たった一つのことしかできない単機能人間になってはいけない、ということです。

2学期は祭りの季節であると同時に勉強の季節でもしっかりした稔りを収める時期でもあります。文化祭の日程を昨年度よりも1週間遅らせたには、短い時間で適当に終わらせるのではなく、祭りづくりと勉強とを同時並行して行える経験を積んで欲しい、そして両方とも大成功させて欲しいと考えたからです。

世の中は、たった一つのことだけに専念できるほど暇じゃありません。3年生は受験勉強真っ只中だし、2年生も1年生も将来に向けて学力をしっかりと身につける、まさにそのときを迎えています。大事なのは、両立させる工夫にチャレンジすることだ。

最初から、たった一つのことだけで諦めていたら、いつまでたっても自分の器は大きくならない。「武高祭も勉強も並行してやれなんて無理だよ」そう思った瞬間、君たちの遺伝子に書き込まれた「勉強をやるぞ遺伝子」は眠り込んだままになってしまうのです。

「大変でもだまされたつもりでやってみるか」・・・こう思えたら「勉強をやるぞ遺伝子」は「祭りもやるぞ遺伝子」とともに解発され、気がつくど、自分ってこんなこともできたんだという新しい自分を発見できることになるに違いありません。

少し無謀だと思えるくらいに世界を広げて、何事にも並行してチャレンジする・・・そこでしか味わえない生きる醍醐味、その味をしっかりと体験して欲しいと思います。今までにはない自分と遭遇できる絶好のチャンスです。

この1年半、生徒諸君の勉強振りや部活動などをみて、武蔵丘の生徒ならできる。行事と勉強、部活と勉強、2足、3足のわらじを履いて頑張れるのに、これまでの武蔵丘には足りなかったなというのが正直な実感です。

君たちの奮闘を応援しています。頑張ってください。

以上

(平成22年9月1日第二学期始業式の挨拶から)